学び合いの中で思考力・判断力・表現力を育てる社会科学習の展開

－　中学１年　地理的分野「世界の人々の生活と環境」の実践から　－

１　授業の構想

(1) 子どものとらえについて

- 私は，地球について知らないことがたくさんあります。でも，ほんの少しですが，陸と海のことなど知ることができてうれしかったです。（生徒Ａ）
- いろいろな国を部分的に見て，わからない国とかあったけど，どんなふうに見えるかで，私には考えつかない意見が出たので見方が広がったと思います。（生徒Ｂ）
- 前からどうしてエジプトは，国境が直線なんだろうと思っていたので，今日それが解決してよかったです。（生徒Ｃ）
- 国境線の引かれ方には，いろいろなものがあるということを知りました。日本は，島国なので「国境」と言われてもあまり実感がありませんが，日本も領土問題などがあるということを改めて実感することができました。（生徒Ｄ）

ここに示したものは，中学校に入学間もない子どもたちが，授業後に書いたふりかえりの一部である。社会科学習に対して非常に興味関心をもち，生き生きと意欲的に学習に取り組もうとする姿がうかがえる。この姿こそが，問題解決的な学習を進めていく社会科学習において，大きな原動力であり，知識の獲得（習得）が活用を生み，探究していくことにより，豊かな学びの姿をめざすことができるのではないかと強く感じている。

中学１年の地理的分野の学習は，世界の地域構成について学習することから始まり，写真や映像など具体的な資料を準備し，世界の地域構成や生活の舞台としての地球の姿を大観させ，世界の国々や地名，世界地図などに関心を高める活動から展開していく。また，導入段階として，地図の読図や作図，地球儀を活用することなどの技能の習得に力を入れていきたい時期である。小学校から中学校へと学習の場を移した生徒の多くは，社会事象に対する関心・意欲が高く，身近な出来事に関心をもち，疑問に感じたことを意欲的に追求することができるように思われる。実際に，毎時間の授業後の自己評価カードを見ると，多くの生徒が自分の気づきや疑問を取り上げている。しかし，学習課題に対して深く考え，判断した結果を表現する活動は，まだ十分に定着しておらず，具体的な事象を取り上げ，生徒一人ひとりが主体的に学習できるようさまざまな授業形態を工夫していきたいと考えている。

(2) 本単元の目標や内容と社会科で考える思考力・判断力・表現力の育成との関わりについて

本単元「世界の人々の生活と環境」は，新学習指導要領における地理的分野の大項目「世界とさまざまな地域」の項目イ「世界各地の人々の生活と環境」に基づいて設定したもので，世界各地の人々の生活の様子を衣食住や宗教を中心に，自然及び社会的条件と関連づけて大観させ，世界の人々の生活や環境の多様性に着目させることをねらいとする。

ここでは，世界全体が学習の対象となっているが，人々の生活を中心に扱うのであって，人々の生活の地域的特色を自然的条件の違いにばかりに着目して説明する環境決定論的な学習にならないように授業づくりを検討していく必要がある。社会的条件については，地域の歴史的背景や住民の民族構成などが人々の生活に影響を与えていることにも十分に留意していきたい。大切なことは，

○地域の人々の生活はそれぞれの地域の地理的諸条件のもとに成り立っている

○他地域の人々の生活を理解するのに自分たちの生活を絶対視してとらえてはいけない

ということに留意しながら異文化を理解していくことではないかと考える。

以上のことから，本単元は，地理的分野の学習の導入時において，次に示した社会科における思考力・判断力・表現力を育てていくための授業構成に有効であり，単に世界の国々の名前や位置，国旗の理解

等にとどまらず，世界各地の人々の生活の様子について多面的に学習を深めることのできる格好の教材と考える。

思考力	社会事象を多面的・多角的に考察する力，社会事象の意味・意義を解釈する力，事象の特色や事象間の関連をつかむ力。加えて，これらの力で得た知識・概念などをまとめる力。
判断力	公正に判断する力，社会的な見方や考え方ができる力。（公正に判断する力は，事実を科学的に判断することだけではなく，未来に向けての子どもたち自身が生き方を判断する力を指している。つまり，事実判断の上に立った価値判断ができるということである。）
表現力	思考・判断したことを他者に伝える力。（これまでも社会科では様々な表現力の育成が求められてきた。学習指導要領の改訂で求められている言語能力を活用した表現には，レポート作成や論述があるが，論述では自分の論を一方的に述べるのではなく対話が成り立つことが大切である。根拠をもって自分の言葉で他者にわかりやすく伝える力を育てることが必要であると考える。）

(3) 11年間で育てる思考力・判断力・表現力の育成に関する学び合う場面の構想について

本単元にかかわる内容としては，小学校第５学年と６学年の学習が挙げられる。第５学年では「国土の位置」（わが国の領土と近隣の諸国，国旗），第６学年では「国際理解や国際交流」の内容にかかわる学習が取り扱われることになっている。しかし，いずれも国土の概要を理解したり，わが国と関係の深い国の様子を理解したりすることが目標となっている。したがって，衣食住・宗教を中心とした世界各地の人々の生活の様子についての学習は，中学１年で初めて扱う内容が多いと考えられる。地理的分野の学習の導入段階にあたる本単元で，世界の人々の生活について興味・関心をもつことができる生徒，同じような自然条件の地域でも異なる生活の特色があったり，社会的条件による生活の違いがあったりすることなどを理解できる生徒を育てることが地理的分野の目標の達成からも大切なことであると考える。

そのためには，第一に学習前に必ず生徒の意識調査を実施しその傾向を把握すること，第二に具体的で平易な資料を準備することの二点を配慮していきたい。また，本単元は，世界の人々の生活や環境の多様性と同じ地域での変容という点に重点を置いて学習する。いずれの学習も具体的な事例をもとに学習を進め，生徒の理解を容易にするよう工夫していかなければならないが，世界の人々のくらしの学習については，興味・関心がもてるようなはたらきかけや問題を発見することができるまでの掘り下げを，世界の人々の衣食住については，自分なりの見方や考え方をもつことができるような資料の活用や学び合いの場面を設定していきたい。実際には，教科構想で示したように思考力・判断力・表現力の詳細を次のようにとらえ，本単元でａ～ｄの学習活動の場面を組み込んで単元構成していく。

＜思考力・判断力・表現力の詳細とその力の発達課題＞

○問題発見する…世界各地の様々な事象から自分なりの問題意識をもつ。

○調べる……社会事象の特色や相互の関連をつかむ。社会事象の意味や意義を解釈する。

○発信する……調べたことを根拠にして議論する。他者の調べたことに対して，意見を述べたり，考えを伝える。

a	b	c	d
具体的な活動や体験の中から，問題を発見したり，必要な情報を収集する学習活動	他者とかかわり合いながら，発見した問題を整理し，共通の課題としてとらえる学習活動	自分とは違った見方・考え方をもつ他者とのかかわり合いによって，これまでの見方・考え方をゆさぶる学習活動	思考・判断したことを，根拠をもって自分の言葉で他者にわかりやすく伝えることにより，対話が成立する学習活動

2　展開計画

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は，学級全体の学び合いの場面）
1	世界各地の人々の生活の多様性とその変容を知ろう。	1 2 3 4	・調べる地域は，どのような地域なのかを概観する。 (1) アラスカの人々の生活と変容 (2) コンゴとキリバスの人々のくらしとその変容 (3) ペルー（インディオ）の人々のくらしとその変容 (4) 韓国の人々のくらしとその変容
2	世界各地の衣食住・宗教を調べてみよう。 世界各地の人々の生活に影響を与えているのはどんなことだろうか。人々の生活を見る視点を明らかにして，課題を解決しよう。	5 6 7 8	＜世界各地の人々の生活に影響を与えているのはどんなことだろうか。＞ ・次の(1)～(4)の４つの視点から，人々の生活を調べる。 ◇(1)世界の食 「世界の食生活についてみんなで考え，食に関する多様性と変容をとらえよう」 …… 追求テーマをもとに次の視点で調べてみよう。 (2) 世界のさまざまな住居 (3) 世界の民族衣装 (4) 世界の宗教
3	自分の考えを深めよう。	9	◇追求したテーマについて整理し，自分の考えをまとめる。 ◇生活はいろいろな要素で成り立っていることに気づき，世界を見る視点をつかむ。 ＜100年後はどんな世界になるのだろうか＞

3　授業の実際

(1) 学び合う場面の単元構成とめざす姿

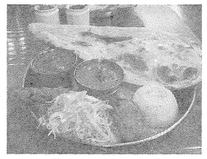
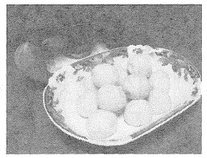
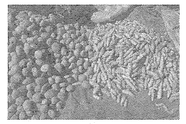
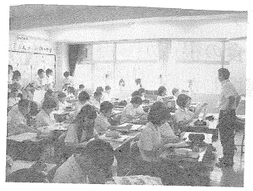
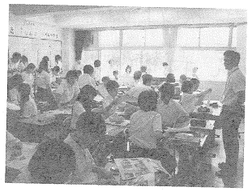
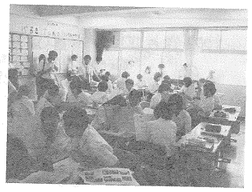
かかわり合いの学習活動の場面を実際には次のように位置づけ展開していき，表の下側に示す姿をめざした。

a	b	c	d
世界各地の人々の生活の多様性とその変容を知ろう。	＜世界各地の人々の生活に影響を与えているのはどんなことだろうか。＞	世界の食生活についてみんなで考え，食に関する多様性と変容をとらえよう。	テーマについて，まとめ，伝え合おう＜100年後はどんな世界になるのだろうか＞
取り上げた国や地域・民族の名前や位置を把握するときに，どのような方法で，どのような観点で見ていくのかを考えている。	具体的な事例から，わかることを見つけ出し，何が問題なのか，なぜそうなったのか，課題を見つけ出そうとしている。	設定した課題について，調べたり，まとめたりすることから，世界各地の地域の変容や人々の選択について考えている。	友だちのまとめや説明を聞くことで，その地域の生活を地理的条件や歴史的背景から，また，その変容を多面的に考えようとしている。

(2) 授業の実際

①世界の食生活についてみんなで考え，食に関する多様性と変容をとらえる……第５時を例として

この時間の具体的な学習内容は，「世界の食生活についてみんなで考え，食に関する多様性と変容をとらえよう。」である。世界の人々の食生活は，自然環境や生活習慣，宗教など多くの影響を受けているが，本時の学習では，このことを考えるために，インドの食生活で確認し，食の変化や未来を考える活動を設定し，世界各地の人々の食生活に対する見方・考え方を高めることに視点を置いて展開していった。学習の流れと学習形態は，次の通りである。

（学習内容）	（形態）	（授業の実際）
1 前時までの学習について確認し，本時の学習のテーマを知る。	一斉（全体）	前時までの学習の確認　・アラスカ　・コンゴとキリバス　・ペルー　・韓国 本時の学習テーマの把握 ※　くらしの違いは，どこから生まれるのだろう。「食」について考えよう。 ・本時の学習内容を把握し，見通しをもつことができるように，前時までの学習をふり返った。多くの生徒が，世界の気候については直接扱ってきていないので，その地域の特色（くらしの違い）としてとらえていた。 ・地域によるくらしの違いは，どこから生まれるのか，何がくらしを変えているのかを，「食」に視点を当てて学習することを意識させることができた。
2 「食事に関するカード」を見て，どこの地域の食事なのかを考える。	一斉（全体）	「食事に関するカード」 ・ア　アラスカ　・オ　ペルー ・イ　サウジアラビア・カ　韓国 ・ウ　インド　・キ　日本 ・エ　イラン   ・ア～キの国々について，「食事に関するカード」を提示して，黒板に貼れるようにした。世界地図の中に位置づけていくことにより，世界各地の地理上の位置を把握することとその地域についての特色を確認することができた。
3 黒板に完成した「食事に関するカード」の分布から，気づいたことを発表する。	一斉（全体）	○発表の内容から類別したこと ・食材について　・食べ方，マナー ・調理の工夫について　・食器，調理器具  ・気がついたことを記入できるように，黒板に地図を提示しておいた。生徒たちの発言は，すでに具体的事象１つ１つを別々のものとして取り上げるより，共通することを関連づけている内容が多く，逆に具体的な事例の特徴を明らかにしていくことに視点をおいて考えるようにはたらきかけていった。 ・気づいたことが内容別に整理できるように，上の４点について類別(色分け)して板書していった。
4 「食生活の違いがどこからくるのか」予想したことを出し合う。	一斉（全体）	地域による食事の内容やマナー，食習慣の違いは，どんなことと関連しているか考えよう。(予想として) ・気候や地形が関係あるのではないだろうか。 ・食生活は，その地域の文化だから。 ・獲れる作物と関連があるかもしれない。など 資料１……世界の食事（写真） 資料２……世界の食事（読み物資料）  ○気候の違いについての意見が多く，食生活の違いを気候からとらえる見方が強いことがわかった。そこで，食材に何が使われているか，食器にはどんなものがあるか，など具体的なところに気がつくように，材料，道具などについて目を向けるように提案していった。
5 食生活の違いがどこからくるのか，インドの食生活から考える。	一斉（全体）↓個人↓グループ	４で出てきた問題を，インドを事例にして検証しようとするものである。そのために，次の３段階でワークシートを活用して進めた。 ①予想を立ててみよう。 ……インドはどんなところなのか ②資料から見つけたことを書いてみよう。 資料３……世界の食・インドの食 資料４……インドの食事情 ③人々の食生活に影響を与えていることは，どんなことが考えられるか，ワークシートにまとめ，班の中で発表する。  ○生徒たちは，次のような点を取り上げて考えていた。 （・宗教　・自然環境　・習慣，伝統　・民族　） ・ワークシートは事前に配布しておき，すぐに活動に入れるようにした。考えをまとめたり，話し合いをするときに活用するようにしてきたのでスムーズに自分の考えをまとめる作業ができていた。 ・具体的な資料を根拠に話し合いができるように，発表の仕方を確認し，グループの中での話し合いをはじめさせた。発表については，ワークシートを発表ボードに貼り付けて，仲間にしっかり見える形で行い，自分の言葉で伝えることができるようにした。(写真参照) 
6 今後，食の文化はどうなるのか，未来の食について考える。	グループ↓全体↓個人	５のところで，グループの中で伝え合ったことを学級全体で共有するために，どんな意見が出たのか，また自分はどのように考えたのか，発表していった。このことにより，グループでの自分の考えの伝え合いが，学級全体に広がり共通することを関連づけて考えることができたり，自分たちのグループにはない意見により見方・考え方が広がっていったりした。 このあとインドからの検証を整理し，地理的な条件だけでなく，社会的な条件からも食生活は影響を受けていることについてまとめていくことができた。 さらに，世界各地で広がるマクドナルドの店舗を紹介し，将来の食文化について考えていく活動を行った。食生活は，（・変わっていく・変わらない）という視点で考えていくことにした。グローバル化した食生活に気づかせるために，伝統的な食文化に対して，現在はどのようになっているのかを紹介し，課題を投げかけた。

②テーマについて，まとめ，伝え合おう＜100年後はどんな世界になるのだろうか＞……第９時

食の視点から迫った第５時の学習を受けて，第６・７・８時では，衣・住・宗教について自分たちで選択した調べ方で学習を進めた。そして，第９時では「自分の考えを深めよう」と投げかけ，

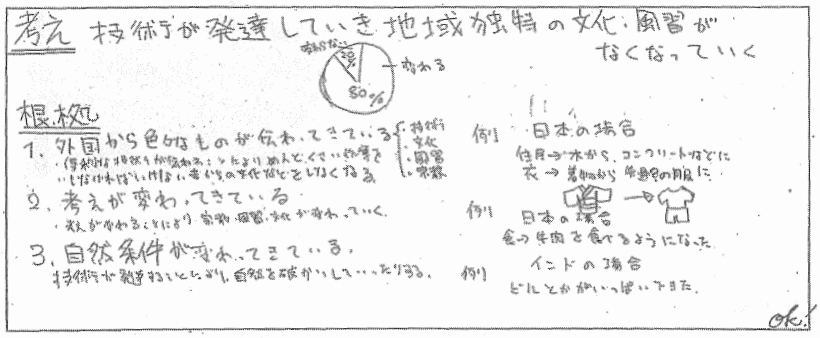
○追求したテーマについて整理し，自分の考えをまとめること

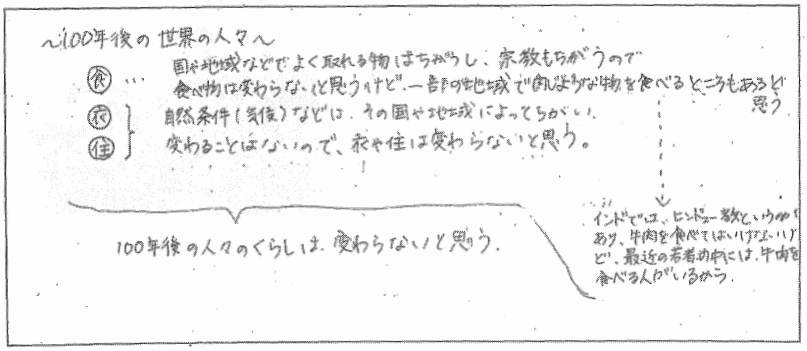
○生活はいろいろな要素で成り立っていることに気づき，世界を見る視点をつかむこと

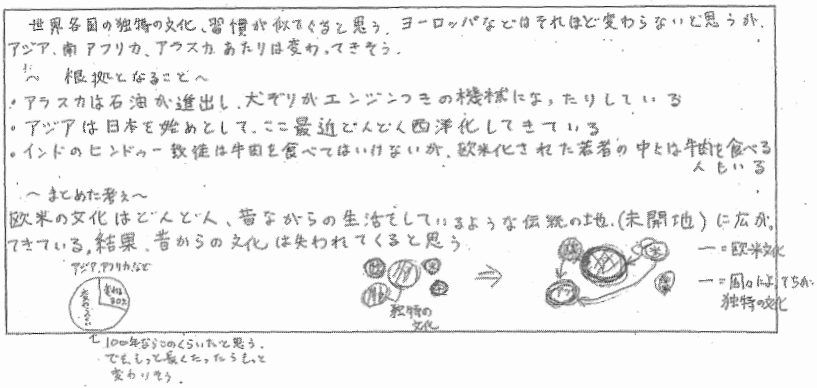
を具体的な学習とした。そして，終末において，＜100年後はどんな世界になるのだろうか＞という共通の課題について，一人ひとりが自分の考えを述べ，伝えていこうとした。紙面の都合上詳細を述べることはできないが，多様な考えを根拠をもとに引き出すことができ，対話による議論も行うことができた。この際，一人ひとりがもっている多様な考えを深められるよう，立場分けをしたり，根拠となることへの問いかけや問い直しをしたりして，個々の考えがの違いを明らかにするために掘り下げていった。

4　成果と課題

本単元の終末において，100年後の世界はどのようになっているのか，についての自分の考えをまとめた。次のような記述が見られた。







a～dの学習場面を意図して単元構成し学習を進めていくことにより，社会的な事象に対して多面的・多角的にとらえる見方が身についていっていると考える。社会科における思考力・判断力・表現力の育成を図るためには，問題発見の場面がまず大切になってくる。そして，問題解決の場面では，生徒の思考を深めるために，一人ひとりの考えを掘り下げていくことで，考え方の違いが明らかにできると考えている。本単元の実践では，a「具体的な活動や体験の中から，問題を発見したり必要な情報を収集する学習活動」の中から問題発見をめざした。世界各地の人々の生活の違いに目を向けさせていくことにより，問題発見から追求という過程に学習を進めることができた。さらに，検証したり，まとめたりしたことを伝え合うという表現的な活動を通してより高次の見方・考え方が身につき，思考力・判断力・表現力は高まったように思われる。

特に思考・判断したことを，根拠をもって自分の言葉で他者にわかりやすく伝える活動を仕組み，自分の言葉で相手に説明し，対話していく場を設定し，言葉にこだわり，掘り下げて，伝える活動を徹底することは非常に重要であり，有効なことであると感じた。学び合いを通して，より発展的な学習を考えていきたい。

（文責　原　　義昭）